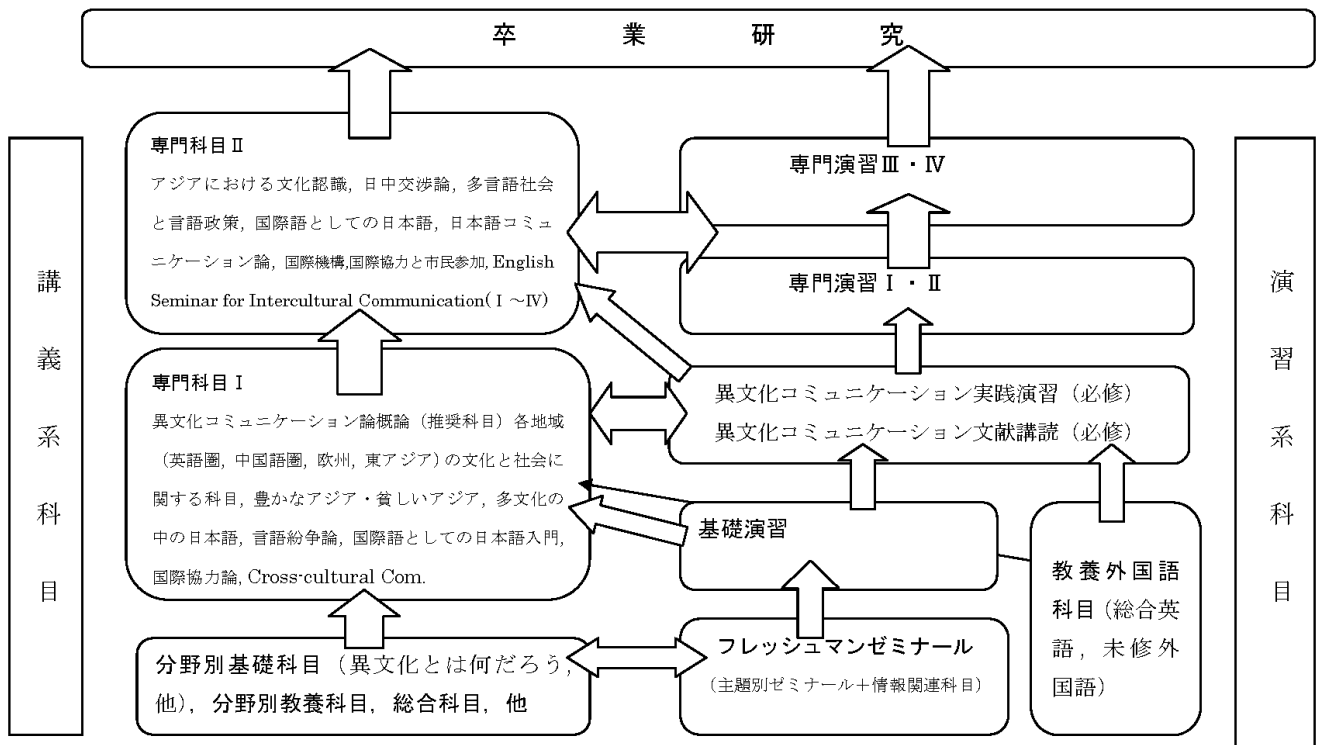


異文化コミュニケーションコースのカリキュラムについて

(1) 異文化コミュニケーションコースのカリキュラム構成

2年次前学期においては、他コースの概論的専門科目を履修して幅広い視野を身につけると同時に、異文化コミュニケーション論概論を履修し（コース推奨科目）、総合的な知識の修得に努め、専門分野へ進む基礎的な学力を身につけます。2年次後学期からは、講義系科目の履修と合わせて異文化コミュニケーション実践演習、異文化コミュニケーション文献講読を履修し（必修）、理論と実践の両面から異文化コミュニケーション研究に必要な知識・視点・方法論を身につけます。3年次からはこれらに加えて専門演習の履修が必修となり、卒業研究作成に向けて必要な知識・方法論を身につけます。

(2) 異文化コミュニケーションコースのカリキュラムマップ



(3) 異文化コミュニケーションコースの学年ごとの達成基準及び対応授業科目表

		達成基準	対応授業科目
1 年 次	通 年	①コースでの学修に必要な汎用的な基礎的能力及び語学力を身につけている。	①フレッシュマン・ゼミナール、 教養外国語科目（総合英語、 未修外国語）、分野別基礎科目 （異文化とはだ何ろう、他）
2 年 次	前 学 期	①異文化コミュニケーション研究の多様な分野の概要を知り、基本的な考え方を理解している。 ②異文化コミュニケーションの諸問題が社会、心理、教育、文芸、歴史、言語、メディアなど他の学問分野と関連した学際的な広がりを持っていることを理解している。	①②異文化コミュニケーション論 概論（推奨科目）、 ①②基礎演習、 ①②専門科目Ⅰの選択科目、 ①②各地域（英語圏、中国語圏、 欧州、東アジア）の文化と社会 に関する科目
	後 学 期	①各自の関心を持つ問題について、基本的な理論を理解し、適切な研究方法の基礎的な知識と技術を身につけている。 ②異文化コミュニケーションの学際的性格について理解し、異文化理解、国際協力におけるコミュニケーションの問題を社会、心理、教育などの他の学問分野との関連を視野に入れて、捉えることができる。 ③外国人留学生をはじめ、文化背景を異にする人々と積極的に交流する姿勢を身につけている。また、ボランティア活動、外国人留学生のチューターなどを含む学内外の多様な国際交流・国際協力活動に積極的に参加できる。 ④異文化コミュニケーションの実践活動を通して、自らの関心のある諸問題を発見することができる。	①②異文化コミュ文献講読（必修） ③④異文化コミュ実践演習（必修） ①②専門科目Ⅰの選択科目 ①②③ Cross-cultural Communication
3 年 次	通 年	① 異文化理解、国際協力分野における異文化間の諸問題について、異文化コミュニケーションの視点から自律的に問題を設定できる。 ② 異文化コミュニケーションの専門性を踏まえて、多文化間のコミュニケーションの諸問題について論理的かつ総合的に考察できる。 ③ 主体的に異文化コミュニケーション活動を計画し、実践活動を展開することができる。	①②③専門演習Ⅰ・Ⅱ ①②専門科目Ⅱの選択科目
4 年 次	前 学 期	① 卒業研究の課題を実証的に探究できる。 ② 学際的な視点から問題を設定し、自律的に考察、研究を進めることができる。 ③ 自らの設定したテーマ、作成した計画に従って、卒業研究の作成に取り組むことができる。	①②③卒業研究、 専門演習Ⅲ ②専門科目Ⅱの選択科目
	後 学 期	① 卒業研究をまとめ、成果を適切に発信することができる。	①卒業研究、 専門演習Ⅳ、 専門 科目Ⅱの選択科目

※「フレッシュマン・ゼミナール」とは「主題別ゼミナール」と「情報関連科目」を合わせた呼称です。